

2. 1971年6月27日熊野観測点近傍に起こった地震の余震

地震研究所 { 中村正夫
堀本貴代子

(昭和48年1月20日受理)

1971年6月27日09時06分熊野観測点近傍で $M=4.0$ (生石山流し記録)の地震があり新宮では有感であった(震度1)。この地震後極く近傍に余震と思われる微小地震が増加したので報告する。なお熊野での S-P 時は主に $0.6\sim 0.8$ 秒であるが 1.0 以上のものも多少混じっている。

Fig. 1 は余震と思われるもの(通常活動分を含む)を振幅制限を加えず全部を含めた積算曲線である。典型的な余震の減衰カーブを示しているようであり、約4日間で平常活動に復しているようである。

なおこの近傍では1968年7月7日23時51分に $M=4.1$ (3.6 J. M. A) が起こっているが S-P 時が 1.7 前後であり少し場所が異なり、余震も24時間で20程度であった。

1971.8.12 (和歌山ノート No. 2-1)

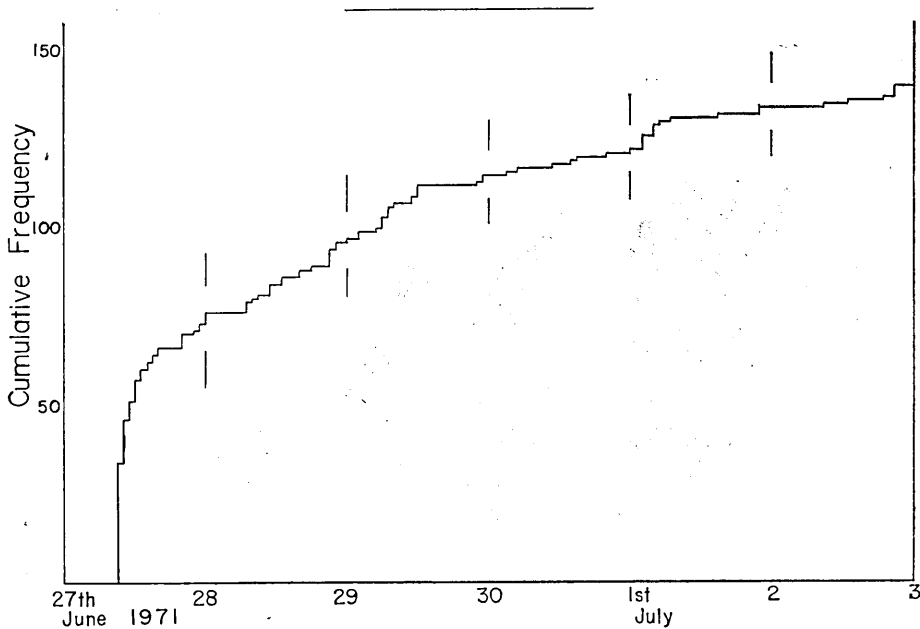


Fig. 1. Cumulative frequency curve of aftershocks of the earthquake of magnitude about 4.0 occurred on June 27, 1971 near Kumano station.

2. *Aftershocks of the Earthquake occurred on June 27, 1971
near Kumano Station.*

By Masao NAKAMURA and Kiyoko HORIMOTO,
Earthquake Research Institute.

An earthquake of magnitude about 4.0 occurred on June 27, 1971 near Kumano station with many aftershocks. The cumulative frequency curve is shown in Fig. 1.